

授業こそ児童・生徒指導

授業デザインシート活用例

「だれもが」「安心して」「豊かに」学ぶために
横浜プログラムの考え方を取り入れた授業のススメ

Y-P の考え方を取り入れた授業での

学習の流れが書いてあると
次にやることがよくわかる。

今日の勉強、
これなら自分にもできそうだ。

子どものつぶやき...

友達が最後まで
話を聞いてくれるから
うれしい。

自分の考えが
みんなの役に立って
うれしい。

少ない人数だと自分の意見を
伝えやすいかもしれない。

うまく話せないところがあっても
友だちが助けてくれるから安心だ。

普段は気が付かない
友だちのいいところが
わかった気がする。

この冊子には、授業デザインシート活用の手引きと記入例が載ってます。
参考にしてあなたの授業をデザインしてください。

本時目標を達成するための
学習活動は
どうしたらいいだろう。

●つくり方：最初に A と B を書いてみる。それを
もとに C をつくる。C のなかの□には、自分で
選んだ学習活動をついていく学習活動を記入する
欄である。書きながら A と B を修正してもよい。

A 教科等のアプローチ

主題や単元・単元

教科のねらい(本時目標)

C 授業のスケッチ

学びの入り口をつくるう

児童・生徒の学習の見直しは...

学びの深まりをつくるう

□個人 □ペアやグループ □クラスメー

学びの入り口で本時のめあて、
見通しをつかむのには
何が必要だろう？

B Y-P による児童・生徒指導

今の学級の状況や実態

目指したい学級の姿

伸ばしたい(補完したい)ポイント

○アプローチ (学習場面) □公正 □寛容
□仲間づくり □役割分担 □転換
□集団づくり □積極的関与 □自律性

○スキル

学級を見つめて、今一番必要な
伸ばしたいスキルを
しばってみよう。



今回は
グループの話し合いの場面で
伸ばしたいスキルが身に着く
工夫をしよう。

シートを活用して、教科のねらいも、
伸ばしたいスキルも両方を意識して
指導ができた。

この冊子の内容は横浜市教育委員会のホームページからダウンロードできます。

授業こそ児童・生徒指導 リーフレット 授業デザインシート活用例

発行 平成 28 (2016) 年 横浜市教育委員会 ©2016 City of Yokohama. All rights reserved.

監修：平成 27 年度 Y-P 指導案 検討委員会

岡田守弘 犬塚文雄 芳川玲子 情報デザイン：須永剛司

作成：平成 27 年度 Y-P 指導案 作成委員会

委員長：土井純 (横浜市立山内小学校) 副委員長：信時加奈 (横浜市立東汲小学校)

委員：

荒井正史 (横浜市立善部小学校) 市毛元 (横浜市立都岡中学校) 工藤然理 (横浜市立豊田小学校)

田中利恵 (横浜市立下野谷小学校) 中川正成 (横浜市立永野小学校) 水谷拓也 (横浜市立東戸塚小学校) 村田真紀 (横浜市立鶴見小学校)

あたたかな学級風土では、子どもたちが自分の考えを伝えあい、
学びあい、互いに認めあえる場が生まれます。

教科等と学級風土づくりのねらいを重ね合わせる 授業デザインシート

記入の手引

※つくりかた：最初にAとBを書いてある。そのもとにCをつくる。Cのなかの「☆」に、日を書いた学級風土づくりのねらいを風土化する試みを書いてある。書きながらAとBを修正してもよい。

リンゴを
縦に切ると・・・



伸ばしたいポイントは「学級風土チェックシート簡易版」*をもとに記入できます。
*横浜市教育委員会ホームページからダウンロードできます。

「教科等のねらい」を達成するための活動・内容などを記入します。

リンゴを
横に切ると・・・



今の学級の状況や課題

伸ばしたい(補充したい)ポイント

- アプローチ (目的)
- 自分づくり
 - 仲間づくり
 - 集団づくり

- 観点 (目的)
- 公正
 - 寛容
 - 自己表現
 - 配慮
 - 課題解決
 - 合意形成

○スキル

児童・生徒指導のねらい

「児童・生徒指導のねらい」は本時の学習活動の様子から、ねらいを達成している具体的な子どもの姿を書いてみましょう。

「目指したい学級の姿」に近づく第一歩として、伸ばしたいスキルをまずはひとつにしぼって、選んでみます。

ここに授業のふりかえりを書いてみよう

このスペースを自分自身のふりかえりメモとして活用しましょう。例えば・・・具体的子どもの姿から本時の授業で良かった点、改善したい点、子どもの発言やワークシートのコメント等。授業実践のあしあとを残し、次時につなげましょう。「授業デザインシート」を書き溜めていくと、学級の成長の記録にもなります。

C 授業のスケッチ

学びの入口をつくらう

____分

児童・生徒の学習の現場の様子

学習形態に✓を入れます。右側の「児童・生徒指導のねらい」に関する教師の願い・思いなどを達成できる学習形態を工夫するとよいでしょう。

学びの出口をつくらう

____分

- 個人 ペアやグループ クラスで・・・

本時のAさんやグループBの姿が具体的に思い浮かびますか？AさんやグループBへの「児童・生徒指導のねらい」の具体的な支援方法は何か考えてみましょう。

- 個人 ペアやグループ クラスで・・・

★ 本時学習で特に伸ばしたいスキルを学ぶ学習場面には☆印を付けて教師が意識していきましょう。

学びの出口をつくらう

____分

児童・生徒の学習の様子

リンゴ (授業)

の全体像は・・・



「児童・生徒指導のねらい」に関する教師の願い・思いなどを自由に記入します。個やグループへの具体的な学習活動への支援のメモとしても活用できます。

AさんやグループBが安心するにはどうするか？事前や当日の学習支援は？グループづくりの配慮は？場の設定は？全体への声のかけかたは？

本時の活動を通して何を学んだのか、学習のまとめにみられる姿を書きます。

「児童・生徒指導のねらい」をふりかえりましょう。学級全体への本時のねらいの価値付けや評価をどのようにしていくかを書いてみましょう。

教科等と学級風土づくりのねらいを重ね合わせる 授業デザインシート

●つくり方：最初に A と B を書いてみる。それをもとに C をつくる。C のなかの に、B で書いた学級風土づくりのねらいを具体化する試みを描いてみる。書きながら A と B を修正してもよい。

例 1



A 教科等のアプローチ

学年・教科等
小学校 2 年生・国語

単元名
詩を楽しもう
「だれかしら」 (2/2)

主題や単元の目標

- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読をする。
- ・言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く。

教科等のねらい(本時目標)

- ・「だれかしら」を基に創作した自分の詩を読み、語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読することができる。

だれかしら
だれかしら
だれかしら
おはなになまえを
つけたひと。
つけたひと。
つけたひと。
つけたひと。
つけたひと。
つけたひと。



B Y-P による児童・生徒指導のアプローチ

今の学級の状況や実態

全体として前向きに学習に取り組んでいるが、語彙が少なく、音読に苦手意識をもっている児童もいる。

目指したい学級の姿

自信のない児童も安心して発表できるよう、相手の言動を温かく受け止められるような学級集団を育てたい。

伸ばしたい(補充したい)ポイント

Cのどこで、そのスキルを学ぶのかマーク(☆印など)をするとよい

○アプローチ (ひとつ選択)

- 自分づくり
- 仲間づくり
- 集団づくり

○観点 (ひとつ選択)

- 公正
- 自己表現
- 課題遂行
- 寛容
- 配慮
- 合意形成

○スキル

②自分なりの見方や感じ方をもつ

児童・生徒指導のねらい

- ・音読をする学習活動を通して、自分なりの見方や感じ方をもつことのよさがわかる。

ここに 授業後のふり返りを書いてみよう

- ・周囲の友達が温かく聴く場面があると、自信をもてないAさんやBさんも少しずつ自信をもって学習に参加できることがわかった。周囲の児童にも友だちのそのような姿を見た時の新しい気づきを、自分なりの見方や感じ方に取り入れられる声かけをしたい。

C 授業のスケッチ

だれかしら だれかしら
「 」になまえを
つけた ひと。

学びの入口をつくろう 5分間

児童・生徒の学習の見通しは…

- ・活動のねらいを確認する。
- ・本時の学習活動の流れを説明する。

教師自身があたたかい言葉かけを進んでしよう。「友だちと声や気持ちをそろえて読みましょう。」
「友だちの声をよく聴いてまとまりに気付いて読んでみましょう。」

学びの深まりをつくろう 35分間

個人 ペアやグループ クラスで…

- ・「 」の中に入る花の名前以外の言葉を考えて、自分のワークシートを完成させる。

語彙が少ないAさんには授業の前にあらかじめ本時の見通しを伝えて、言葉をいくつか一緒に探しておこう。

個人 ペアやグループ クラスで…

- ・自分の詩をグループ内で順番に音読したり、追いかけて読みをしたりする。
- ・音読や追いかけて読みをすることにより、語句のまとまりに気付く。

声の小さいBさんがいるグループには耳を傾けて聞くことが大切だと強調して伝えよう。

個人 ペアやグループ クラスで…



- ・グループ活動のふりかえりを書き、発表する。

声が小さいBさんの音読をよく聞いて追いかけて読みをしていたグループのふりかえりの発表を促し、活動のよさを学級全体に伝えよう。

学びの出口をつくろう 5分間

児童・生徒の学びは…

- ・語句のまとまりを感じて音読ができていたCさんが教師役になり、学級全体で追いかけて読み※をして本時の学びを振り返る。

※追いかけて読み

音読指導で教師が一文、または、一節を区切って読み、子ども達がそれに倣(なら)って読む。(文科省：音読指導の形態より)

いつもは気付かなかった友達の音読のよさに気づき、そんな見方ができる自分のよさに気付くような振り返りを促そう。

教科等と学級風土づくりのねらいを重ね合わせる 授業デザインシート

●つくり方：最初に A と B を書いてみる。それをもとに C をつくる。C のなかの☁️に、B で書いた学級風土づくりのねらいを具体化する試みを描いてみる。書きながら A と B を修正してもよい。

例2

One, two, three, Pull!
One, two, three, Pull!

C 授業のスケッチ

学びの入口をつくらう

5分間

児童・生徒の学習の見通しは…

- ・英語の歌を歌い、アイスブレイクをする。
- ・本時のめあてを確認する。

「みんなで力を合わせて1年生が“楽しいな”と思う英語劇にする」というめあてを全体で再確認しよう。

学びの深まりをつくらう

35分間

個人 ペアやグループ クラスで…

- ・AETの発音を聞きながら、自分の役の台詞を復唱する。

かぶを引っ張る時などの様子が伝わるように表現するとよい劇になることを伝えよう。

個人 ペアやグループ クラスで…

- ★ よりよい英語劇にするにはどうしたらよいかを話し合い、劇の練習をする。

活動の様子を見取り、声をかけながら、「入口」で確認しためあてに向かって取り組んでいるグループを認め、その姿を共有しよう。

個人 ペアやグループ クラスで…

- ・グループごとの英語劇を見合い、互いのよかったところを伝え合う。

演技や声の大きさ、間など、互いを認め合う具体のポイントを伝えられる発言をした児童の姿を認めていこう。

学びの出口をつくらう

5分間

児童・生徒の学びは…

- ・本時のめあてを振り返り、よかったことを発表し合う。
- ・一緒に頑張った友達へ感謝の気持ちを込めて、英語の歌を歌う。

友達と協力して英語劇がよりよくなったことを具体のエピソードを挙げて認め、日頃の活動もみんなで協力して行うことができることさらによいクラスになることを伝えよう。



A 教科等のアプローチ

学年・教科等

小学校3年生・外国語活動

単元名

「絵本の世界を楽しもう」
“おおきなかぶ”の英語劇を
1年生に発表しよう。
(2/3)

主題や単元の目標

- ・見せる相手のことを考えて、絵本をもとにした英語劇を進んで発表しようとする態度を養う。

教科等のねらい(本時目標)

- ・物語のなかで使われる英語の表現に慣れ親しみ英語で劇をすることを楽しむことができる。



B Y-P による児童・生徒指導のアプローチ

今の学級の状況や実態

みんなで力を合わせて頑張っていこうとする意識が少ない。

目指したい学級の姿

係活動や学級での活動などに進んで協力して取り組むようになってほしい。

伸ばしたい(補充したい)ポイント

Cのどこで、そのスキルを学ぶのかマーク(☆印など)をするよ

アプローチ (ひとつ選択)

- 自分づくり
- 仲間づくり
- 集団づくり

観点 (ひとつ選択)

- 公正
- 自己表現
- 課題遂行
- 寛容
- 配慮
- 合意形成

スキル


⑱問題や課題の解決策をみんなで考える

児童・生徒指導のねらい

- ・1年生が楽しめるように協力して話し合いをして演技に取り組むことができるようにしたい。

ここに 授業後の振り返りを書いてみよう

- ・常に1年生のことを考える視点を投げかけることで、よりよい劇を発表したいという意欲を高めることにつながった手ごたえがある。

●つくり方：最初に A と B を書いてみる。それをもとに C をつくる。C のなかの  に、B で書いた学級風土づくりのねらいを具体化する試みを描いてみる。書きながら A と B を修正してもよい。

例3

C 授業のスケッチ



A 教科等のアプローチ

学年・教科等

小学校 5 年生・算数

単元名

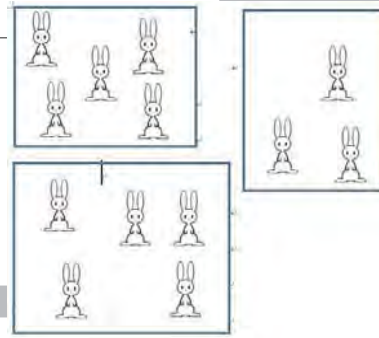
単位量あたりの大きさ
「単位量あたりの大きさ」
(7 / 15)

主題や単元の目標

- 平均の意味を理解し、それをを用いることができる。
- 異種の 2 量の割合としてとらえられる数量について、比べることの意味や比べ方、表し方を理解し、それをを用いることができる。

教科等のねらい(本時目標)

- 混み具合は面積と個数の異種の 2 量の割合で比べられることを理解する。



B Y-P による児童・生徒指導のアプローチ
(教師のつぶやきとして描いてみよう)

今の学級の状況や実態

友達に対して思いやりの態度を持っているが、人の意見に流されがちで、自分の意見を表現できない子どもが多い。

目指したい学級の姿

個々の考えが認められている雰囲気の中で、一人ひとりが安心して自分の考えを表現できるようにしたい。

伸ばしたい(補充したい)ポイント

C のどこで、そのスキルを学ぶのかマーク(☆印など)をするとよい

○アプローチ (ひとつ選択)

- 自分づくり
- 仲間づくり
- 集団づくり

○観点 (ひとつ選択)

- 公正
- 自己表現
- 課題遂行
- 寛容
- 配慮
- 合意形成

○スキル

⑤はつきり伝える

児童・生徒指導のねらい

- 一人ひとりが安心して自分の考えを友達に話すことができる。

ここに 授業後のふり返りを書いてみよう

- 考えの違いを認め、よさを感じとっていた。友達の見解を補いながら、話を聞いていた。
- グループ内では安心して発表できるようになったので、少しずつ学級全体に発表ができるように支援を続けていこう。

学びの入口をつくらう

5分間

児童・生徒の学習の見通しは…

- 混み具合を比べる見通しをもつ。
- ウサギ小屋のイラストをみて考える。
- いくつ分というこれまでの測定の仕方では比べられない。

全員が自分の考えを表現できる場を準備しよう。
Aさんには絵をつかって発表できるように助言しておこう。

学びの深まりをつくらう

30分間

個人 ペアやグループ クラスで…

- 混み具合を比べる方法を考える。

AさんとBさんの二人が自分の考えに近いヒントカードを選択することで安心して取り組めるようにしよう。

個人 ペアやグループ クラスで…



- 自分の考えを二人(ペア)で伝え合う。
- 自分の考えをグループ(4人)で伝え合う。

聞く人が自分と違う考えに関心を寄せられるように声をかけよう。

個人 ペアやグループ クラスで…

- グループで出された考えを全体で伝え合う。

グループの伝え合いで友だちの考えに関心をもちながらCさんの聞き方をほめよう。

学びの出口をつくらう

10分間

児童・生徒の学びは…

- 混み具合は2量の割合で比べられることを理解し、友だちに説明したり、自分なりにまとめたりする。

それぞれの考え方のよさについてじっくり考える時間をとろう。
互いの考えを補い合いながら伝え合いをしていたDグループをほめよう。

教科等と学級風土づくりのねらいを重ね合わせる 授業デザインシート

●つくり方：最初に A と B を書いてみる。それをもとに C をつくる。C のなかの☁️に、B で書いた学級風土づくりのねらいを具体化する試みを描いてみる。書きながら A と B を修正してもよい。

例4



A 教科等のアプローチ

学年・教科等

中学校 3 年生・理科

単元名

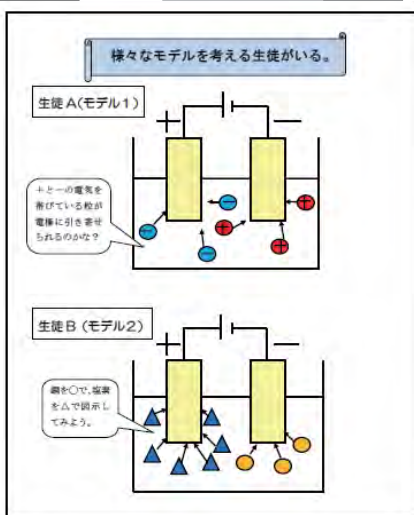
化学変化とイオン
「電解質の水溶液に電流を通した
ときの変化」(1/3)

主題や単元の目標

水溶液の電気伝導性や電気分解の実験を行い、その実験結果から、イオンの概念を形成させる。

教科等のねらい(本時目標)

- 塩化銅水溶液を電気分解すると、陽極から塩素が発生し、陰極に銅が付着する理由を、モデルを使って表現し説明することができる。



B Y-P による児童・生徒指導のアプローチ

今の学級の状況や実態

真面目に取り組んでいる生徒は多いが、一部自己主張が強く、学級全体が発言しにくい雰囲気になっている。

目指したい学級の姿

相手の話を聴き、お互いを認め合い、話し合える雰囲気を醸成したい。

伸ばしたい(補充したい)ポイント

Cのどこで、そのスキルを学ぶのかマーク(☆印など)をするとよい

○アプローチ (ひとつ選択)

- 自分づくり
- 仲間づくり
- 集団づくり

○観点 (ひとつ選択)

- 公正
- 自己表現
- 課題遂行
- 寛容
- 配慮
- 合意形成

○スキル

⑮ しっかり話を聴く

児童・生徒指導のねらい

- 安心して自分の意見を発言できる雰囲気をつくるためにも、生徒一人ひとりが、人の話をしっかり聴く力を高める。

ここに 授業後のふり返りを書いてみよう

- 授業を通して人の意見をしっかり聴くという意識が高まっていった。感想を見ると、考えを深化できた生徒も多かったため、さらに話し合い活動を継続して上手な合意形成まで目指していきたい。

C 授業のスケッチ

学びの入口をつくろう

5分間

児童・生徒の学習の見通しは…

- 前時で学んだ電解質についてふりかえる。
- 本時の目標、課題、進め方を確認する。

人の発表を温かく聴くことは、自分の考えの深化にもつながり、発表者も安心して話せる大切なことだと伝えよう。

学びの深まりをつくろう

35分間

個人 ペアやグループ クラスで…

- 塩化銅水溶液に電流を流している時の水溶液中の様子を電気を帯びた粒子のモデルで考える。

考えが進まないAさんには、銅や塩素を○や△に図示して考えてみるように助言しよう。

個人 ペアやグループ クラスで…

- 1人ずつ順番に自分の考えを発表した後、グループで1つのモデルを練り上げる。

人の発表を温かく聴くという約束を伝え、安心して話ができる場を作ろう。
人の話を最後まで聴いているBグループの姿を認めて声をかけよう。

個人 ペアやグループ クラスで…

- グループ同士発表し合い、質問や意見に応じる。
- 質問や意見をふまえて、モデルを再検討し、再び発表し合う。

質問や意見ができるのは話をしっかり聴いていたからだ伝えよう。
個々が考えたモデルを成長させるような、活発な議論を促そう。

学びの出口をつくろう

10分間

児童・生徒の学びは…

- いくつかのグループがクラス全体に発表し、考えを分かち合う。
- 塩化銅水溶液中で、銅原子や塩素原子は電気を帯びた粒子になっていると考えられることを確認する。

うなずいて話を聴いているCグループの姿をクラス全体に伝えよう。